

半導体漫遊記

(310)

湯之上隆

2020年に世界的にコロナの感染が拡大し、20年後半から21年前半にかけてリモートワーク、オンライン学習、ネットショッピングが急速に普及した。その結果、各種の電子電機製品が爆発的に売れたため、それに使われる各種の半導体需要も急拡大した。

ところが、21年後半以降に人々がコロナに慣れてきたことなどから、コロナによる特需は終焉を迎え、電子電機製品の需要が急低下し、半導体需要も急速に冷え込んでいった。つまり好況が一転して、コロナ特需の終焉による半導体の大不況がやって来たわけである。

特にMPU(プロセッサ)、DRAM、NANDの出荷額の低下は目を覆うほどとなった。

まずMPUは、22年第3四半期に過去最高の184億ドルの出荷額を記録したが、同年第4四半期にその60%の

落ち込みとなった。その結果、22年第4四半期の決算では、メモリ

のチャンピオンのサムスン電子が前年同期比で97%の減益となった。そして、それ以外

はSKハイニックスも、米マイクロンも、

踏み込んでキャッシュを稼ぐのがメモリビジネスの王道である。しかし、サムスン電子以外は企業存続の危機に直面しており、投資どころか倒産する企業が出てもおかしくない有様である。

またMPUは、22年第3四半期に過去最高の184億ドルの出荷額を記録したが、同年第4四半期にその60%の

落ち込みとなった。その結果、22年第4四半期の決算では、メモリ

のチャンピオンのサムスン電子が前年同期比で97%の減益となった。そして、それ以外

はSKハイニックスも、米マイクロンも、

踏み込んでキャッシュを稼ぐのがメモリビジネスの王道である。しかし、サムスン電子以外は企業存続の危機に直面しており、投資どころか倒産する企業が出てもおかしくない有様である。

さらに、インテルにももう一つ大きな問題がある。初めてEUVを使う「intel 4」が立ち上がらないのである。「intel 4」はTSMCの7

nmに相当するが、TSMCが22年末に3

位に転落した。約10万人の社員を抱えているインテルは、数千人規模の人員削減を発表しているが、その程度では出血は止まらない。

コロナ特需終焉で大不況

インテル、最も厳しい状況

ところが、21年後半以降に人々がコロナに慣れてきたことなどから、コロナによる特需は終焉を迎え、電子電機製品の需要が急低下し、半導体需要も急速に冷え込んでいった。

つまり好況が一転して、コロナ特需の終焉による半導体の大不況がやって来たわけである。

特にMPU(プロセッサ)、DRAM、NANDの出荷額の低下は目を覆うほどとなった。

まずMPUは、22年第3四半期に過去最高の184億ドルの出荷額を記録したが、同年第4四半期にその60%の

落ち込みとなった。その結果、22年第4四半期の決算では、メモリ

のチャンピオンのサムスン電子が前年同期比で97%の減益となった。そして、それ以外

はSKハイニックスも、米マイクロンも、

踏み込んでキャッシュを稼ぐのがメモリビジネスの王道である。しかし、サムスン電子以外は企業存続の危機に直面しており、投資どころか倒産する企業が出てもおかしくない有様である。

ところが、21年後半以降に人々がコロナに慣れてきたことなどから、コロナによる特需は終焉を迎え、電子電機製品の需要が急低下し、半導体需要も急速に冷え込んでいった。

つまり好況が一転して、コロナ特需の終焉による半導体の大不況がやって来たわけである。

特にMPU(プロセッサ)、DRAM、NANDの出荷額の低下は目を覆うほどとなった。

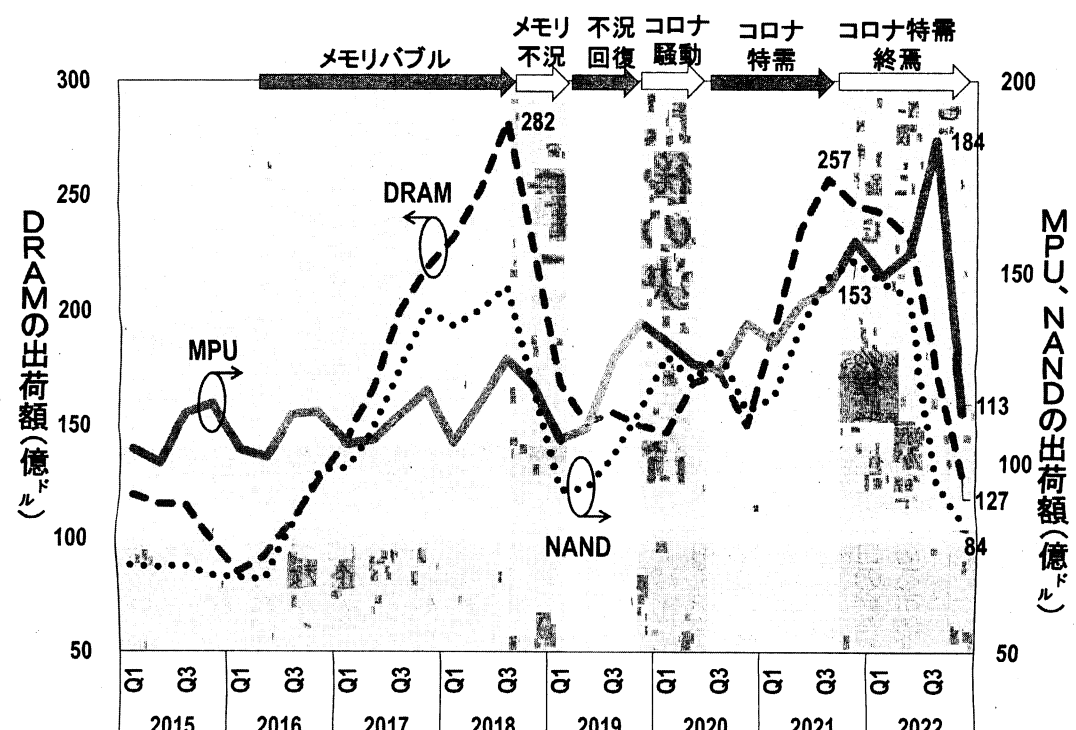
まずMPUは、22年第3四半期に過去最高の184億ドルの出荷額を記録したが、同年第4四半期にその60%の

落ち込みとなった。その結果、22年第4四半期の決算では、メモリ

のチャンピオンのサムスン電子が前年同期比で97%の減益となった。そして、それ以外

はSKハイニックスも、米マイクロンも、

踏み込んでキャッシュを稼ぐのがメモリビジネスの王道である。しかし、サムスン電子以外は企業存続の危機に直面しており、投資どころか倒産する企業が出てもおかしくない有様である。



MPU、DRAM、NANDの四半期毎の出荷額(～2022年Q4)

出所: WSTSのデータを基に筆者作成

じで、プロセッサ用とファウンドリー工場を2棟ずつ建設する計画である。しかし、もはやそんな投資を行っている。インテルといえど、

MDが好調であるため、インテルだけがそのあおりを食っていない。インテルは22年第2四半期と第4四半期に赤字に陥った。世界半導体売上高ランキングでも、TSMCとサムスン電子に抜かれて3